

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

略歴 1970年(昭和45年)生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax: **0476-36-7802**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)



twitter



公式HP



LINE 公式アカウント



facebook

竜腹寺交差点でもたまたま死亡事故 信号設置求める声届かず

県道印西佐倉線と市道下池三度山線が交わる、印西市・竜腹寺554-1先交差点。交差点内の見通しの悪さから、信号機設置要望の声が上がっていた中、今年1月には再びの死亡事故が発生しています。

●見通しが悪く、スピード超過車両多し

竜腹寺 554-1 先交差点(以下、竜腹寺交差点)は、県道印西佐倉線(県道 65 号線)と市道下池三度山線が交わる十字路交差点。同所には、県道印西佐倉線を横断する地域唯一の横断歩道が設置されていること、旧本埜村中心部にあたる笠神、中根地区などから印西牧の原駅や国道 464 号方面に向かう通り道となっていることから、地域住民が多く利用する要衝交差点となっています。



竜腹寺 554-1 先交差点

しかし、本埜支所方面から南下してきた歩行者や自動車にとって、同交差点での右方向(滝野方面)の見通しが著しく悪い上、県道を走る車両の多くがスピードを出し過ぎている状況。歩行者の横断や車両の右左折時にヒヤッとするのは日常茶飯事です。

●平成22年にも四輪車と歩行者の死亡事故

実は、竜腹寺交差点では平成 22 年に四輪車と歩行者による死亡事故が発生しており、地域で知られた危険な交差点。地元住民からは何度となく信号機の設置要望が上げられ、また、岩井自身も

令和になってから、県議会にて竜腹寺交差点のの問題を取り上げ、信号機設置を求めてきたところでした。

そんな中、同交差点で再びの死亡事故が発生してしたのは今年 1

月。交差点左から来た四輪車を避けようとした二輪車が転倒し、運転していた 50 代男性が亡くなるという痛ましい事故です。

交差点を通行する誰もが危険とわかっており、また、信号機設置等の安全対策を繰り返し求めてきただけに、防ぐことができた死亡事故ではないかとの声が出るのも当然です。



●「今度こそ」との思いで信号機設置を実現させたい

一度ばかりか二度までも発生した死亡事故。今回の事故をきっかけに、同交差点に何とか信号機を設置することができないかと考えています。

信号機設置は警察の仕事であり、地元選出の県議としてしっかり働きかけを行ってまいりたいところ。地元住民からも声が上がっており、「今度こそ」との思いで信号機設置を実現させてまいります。

カワウ対策で「2工区分」樹木伐採 印西・花の丘公園

県立北総花の丘公園内の調整池に生息し、糞などの生活環境被害をもたらしているカワウ問題。年度内に枝伐採に着手した後、来年度以降にそのエリアを広げていく見通しです。

●相談を受けてから早4年 試行錯誤も効果上がらず

千葉 NT 中央駅からほど近い県立北総花の丘公園では、多くの数のカワウが生息しています。古い数字になりますが、2012年に確認された1,888羽は県内総個体数の3割にも相当。また、以前はねぐらとしてのみ利用していたものが、今は公園内で営巣するようになっており、個体数はさらに増加しているものと思われます。

問題となってきたのは、糞による生活環境被害。カワウの糞は窒素やリンを含有しているため、公園内の草木を根元から枯らすなど自然環境に深刻な影響を与えています。公園に隣接する住宅街では、「糞の臭いがひどい」「洗濯物を外に干しておけない」「車のボンネットが汚れる」などの悲鳴が上がっているのです。

岩井が最初に相談を受けたのはかれこれ4年前の2019年。隣接地区である戸神台東自治会のカワウ対策委員会の方から、「いわちゃんポストを見て…」とご連絡をいただいたのがきっかけです。当時、県が行っていたカワウ対策は、年数本程度の枝払いと獣害防除用「リンロンテープ」の設置程度。自治会長さんらとともに現地確認、県への要望、加えてドローンを活用した追い払いの提案などいろいろ試行錯誤してみたものの、十分な効果があったとは言い難い状況でした。



昨年6月には民放テレビ番組でも取り上げられた

●年度内着手も、全工区伐採までは道のり遠し

そんな中、今年度から県が取り組むこととなったのが、本格的な樹木の伐採。カワウが営巣を行う池に面する樹木が対象で、約2600㎡を12の工区分に分けて作業を進めていくとのこと。実は、営巣を始める前の昨年7月から10月の着手を目指していたものの、作業の特殊性、困難さから手を挙げる業者が少なかったため、業者選定を行うことができず、年が明けてようやく段取りができた格好です。

さて、年度内に伐採できるのは、わずかに2工区分の約400㎡。県担当課によれば、予算の関係から5年度中に一気に残り全部を着手するのは難しいとのこと。住民から苦情が多く上がっている箇所を優先着手することとなりますが、できるだけ多くの予算が得られるよう、地元選出の県議会議員としてしっかり働きかけてまいります。

